

令和4年2月13日

南の風 433

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

432号の続きです。恩塚氏は目的達成のために以下のように考えているのです。

～ この目的実現のカギを3つ考えている ～

①選手もスタッフも、なりたい自分、理想の自分へと向かいます。

私は15年間代表チームにかかわってきて、自分に自信を持ってない選手を何人も見てきました。「私なんて・・・」という言葉もたくさん耳にしました。代表選手であっても自信を持ってないのです。

バスケットボール界全体を見渡したときに、もっと多くの割合でこのような方がいらっしゃるのではないかと考えています。だからこそなりたい自分、理想を語る方が増えるように、まず私たちが理想を語っていきたいと考えています。

そして理想を語り始めた人に、「いいね！君ならできる」と応援できるような、そんなバスケットボール界にしていきたいと考えています。

②夢を抱いて全力を尽くす考え方を大切にしたいと考えます。

数年前まで私は高圧的なコーチでした。人は厳しくしないと頑張らないと思っていたからです。結果を出そうとして、私はいつしか寂しい人間観になっていたと思います。

たくさんの学びで気づくことができました。「人は夢を心に抱いて、効果的にやり方を理解して、自信があれば、全力を尽くせる存在である。」と思います。

選手やスタッフが夢を抱いて、全力を尽くせるように誠実に向き合い、相手を信頼し、尊重する言葉で成長へと導いていきたいと考えています。

③選手が自信を持って判断するバスケットボールの追求です。

ナンバープレーでロボットのように選手が動くのではなく、フリーで選手が混乱することもないバスケットボールのやり方を追求します。そのためのカギを「原則」としています。原則を生かして、瞬時に5人が自信を持って判断してシンクロできるようになることを目指します。選手自身が自分でバスケットボールをしている。そうこう感覚を大切にしたいと思っています。

この3つの理想を追求したいと考えています。代表チームは結果がすべてということは理解していますし、最重要課題だと考えています。だからこそ代表チームという重責の中で、それでも理想を語り、理想に向かおうと生きること、挑戦することができたら、夢を残せるのではないかと考えています。

2 目 標 ◎パリオリンピックで金メダルを獲得すること

金メダルを獲得して、皆様と喜びを分かち合いたいと思っています。そのために、『世界一のアジリティー』を追求して、身長の高さをアジリティーで凌駕したいと考えています。アジリティーとは、ネクストプレーの速さや適応力のことです。次号にします。